

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、職員は意識しながらサービスを提供している。しかし理念の共有までには至っていない。現在、職員で理念と一緒に考えていく取組みを行っている。	玄関に入ると大きな字で誰でも理解できる文言で書いてある。現在、日々の中で職員と共に理念の共有化に力を注いでいる。	今後は職場内研修で、職員と常時話し合いを継続していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する小規模多機能事業所と一緒に町内会に入っている。散歩や外での活動時(畑での野菜取りや行きつけのお店での買い物等)には挨拶をしたりして、交流やお付き合いをするように努めている。	町内会に加入し、散歩も兼ねてのふれあいから、地域の方と無理なく交流している。夏祭りには100名くらいの参加があった。今後も、建物をいかしての地域での介護教室や更なる交流の場を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(夏祭り・避難訓練・文化祭等)への参加の働きかけは行ったが、認知症の方の介護を行う事業所の職員の専門性を地域に発信していく役割は今後の課題や目標であり、事業所全体で発揮できる力を養っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する小規模事業所と合同で開催し、地区区長、地域代表、包括支援センター職員を構成員として事業所の取組みや課題を報告し、協力や助言、指導を頂いてサービスの向上に役立っている。	区長他6名の方が出席され、二ヶ月に一回開催されている。サービス内容の報告、避難訓練のこと等が話し合われている。	施設の情報誌は年5回配布している。写真入りでわかりやすく工夫している。今後は運営推進会議に本人・家族の参加出席を呼び掛けサービスの向上への努力を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の地域包括支援センターとの情報交換や地域ケア会議には参加して連携を取るようになっている。	刈羽村の職員、社会協議会の職員、医療関係者の方も出席されての会議となっており協力関係の構築に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関はオープンにしている。安心して外に出られたりするように、目配りや寄り添った介護で安全に配慮している。その他、身体拘束について職員の知識を高める取組みを継続して行う必要性を感じている。	玄関は開けられてあり、開放的である。家族の方も泊まれるような個室の広さもある。身体拘束を必要としないケアが日々の実践がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待は、職員のストレスや職場環境等が原因で起きる事が多いと思うので、風通しの良い事業所作りを常に管理者と職員とで検討していきたい。その他、研修の機会があれば参加していきたい。	職員のストレスの発散が虐待につながる可能性もあるので、特に夜間勤務は二時間の重なる勤務帯をついている。柏崎市のグループホームと一諸に保健所のアドバイスをも受けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉や制度として有る事は理解しているが、取組みは行っていない。今後、研修等で学習の機会があれば参加したり、園内研修等で概略などを知識として学ぶ取組みを行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書で、契約の際に理解して頂けるように説明している。法改正や契約内容の変更の際には、文書等で説明し理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	かぞくが気軽に訪問に来れる事業所の雰囲気や苦情や相談窓口の設置、運営推進会議等で意見や要望を確認している。その他家族には、事業所に来て頂く機会を増やすために行事への参加も働きかけている。	意見の申し出は、役場・施設の管理者で受け付けている。意見内容は運転マナーやスピードの出しすぎ、送迎の対応マナーなどの意見等があるが丁寧の対応が実践されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ事業所の管理者会議を2ヶ月毎に開催し、事業所ごとの職員会議で報告したり意見を聞いて、反映できるようにしている。	法人グループ内各施設の管理者の方6名の会議が2カ月毎に開催され、お互いに地域交流の内容や実践している行事の報告等がなされ、事業運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりを目指して事業所の管理者との会議を定期的で開催している。また、管理者には職員の様子や体調には気を配って頂き早期に気づくようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修の実施や資格習得に対しても事業所で支援出来る体制を整えている。(例：ヘルパーの受講料の半分を事業所負担等)その他、月1回の職員研修会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	24年度より、地域のグループホーム間の連絡会議が発足し情報交換が出来るようになった。今後は交換研修や困難事例の検討等が出来るように連絡会議を活用していきたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接や希望に応じて本人の事業所見学や体験利用をして頂いている。入居後は意図的な働きかけや積極的にコミュニケーションを取ったりして、安心の確保と信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談では家族からの希望や要望、大変な点を聞いている。家族には必ず事業所見学をして頂いている。利用直後は必ず家族に本人の状況をお伝えする事で不安の解消や信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を重視して当面の目標や働きかけを全職員で共通理解を図っていく。必要に応じて主治医や入居前のケアマネージャーやサービス事業者の方からの指導を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活を共に送るパートナーとして、生活の場面で出来る事を一緒に行っている。具体的には家事や茶話会を一緒にしたりして、活動の場面や語らいの場面とメリハリを持って生活をするようにしている。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所と家族がそれぞれの役割を認識して、ご利用者が安心して生活が過ごせるように努めている。事業所からの様子報告は最低月一回は行っている。	月一回の報告は、利用者の担当職員が丁寧に記入し、写真や言葉を通して家族にお知らせする等、家族との関係構築にも力を注いでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望や希望等は実現出来るようにしている。本人からは殆どでないので外出の計画の際に配慮したりしている。	利用者の衣類の入れ替えに家族の方が来られている。家族が都合悪いときは職員が行っている。また、お盆には半数の方が自宅へ帰って来られるなど、本人の要望を最大限に受入れる努力がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、ご利用者と職員はもの舍で生活するパートナーとして、互いに支え合って生活を送る視点を持って、一人一人が持っている力が発揮できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の本人や家族との関係の継続を行っていない。相談があれば対応していくスタンスで取組んでいる。契約終了は、特養への入所、死亡である。入院については目途がつかまでは契約を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者に対して担当制で対応している。最低限、担当者は担当ご利用者の状態を把握しその人の代弁者となれるように努めている。	利用者の担当者は一年間である。施設が設立されて一年少々経過しているが、利用者本人の状態を把握しながら日々の支援が実践されている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に把握するようにしている。入居後も、必要に応じて家族に対して生活歴や嗜好等必要な情報を教えて頂くように努めている。	利用者の身体状況の記録、日々の身体状態の記入はあったが、性格・趣味等が記入されていなかった。今後のケアの参考に必要と思われる。	新しい施設であり、職員全体での共育システムづくりへの意識を持っている。今後は一人ひとりの生活の質を高める為、より一層の資料や記録の整備を期待したい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりからそのご利用者の生活のリズムや行動、出来る事や興味のある事等をつかみ、記録に記載したり、申し送りやケース会議で職員全員に共有出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、ご利用者のケース会議を行い、現状の確認と介護計画の作成や実施過程に生かしている。	ケース会議は月一回開催されている。職員が全員出席して行われている。将来的に家族も参加して頂き開催したい意向である。	御本人の参加または家族の参加があつてこそ、より多く本人の思いを知ることができるので、現実に即した介護計画が課題と思われる。今後に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の状況を記入し、職員間での申し送り、話し合いを行っている。サービスや対応の見直しにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者や家族の要望には可能な限り対応している。特に通院の付添い、自宅への送迎等、必要な支援で出来る事を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに地区の区長、地域の代表の方をお願いしており、事業所の理解と取組み等への協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関及びかかりつけ医に対しての受診は家族と協同して行っている。(通院介助の実施)近隣のかかりつけ医については、事業所への往診もあり、連絡を取り合うことで関係作りが出来やすい環境になっている。	主として柏崎市の医院を利用している。家族が付添い不可の場合には職員が同行通院している。通院経過等は個人日誌に記入がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、隣接の小規模事業所の看護職員に必要時に相談や指導を受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と一緒に病院に行き情報提供を行っている。入院中は状態等を適時ケースワーカー等に確認している。退院についても安心して元の生活に戻れるように指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来1名の方の看取りを行った。その際には、家族に対して医師及び管理者から事業所が出来る事をお話しし、家族から理解して頂いて対応した。今後は、重度化や終末期における事業所の方針や指針を明示化していきたい。	重度化や終末期の看取りは、一人一人の身体状況・家族の状況によって違うが、ある程度の明示化は必要と思ひ、現在とりかかる準備をしている。	今後、重度化や終末期に関する方針・関係書類の整備を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。園内研修で機器の取扱いや対応の研修を実施した。	今迄、消防署の方より研修は受けている。又、緊急マニュアルを作成し、吸引器、酸素ポンペの使用方法を研修する等、実践力を養っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の開設から3回避難訓練を実施した。訓練は隣接事業所と合同で行い、地域の方からの参加も働きかけている。訓練は夜間を想定して実施している。	避難訓練は実施されている。隣接の小規模多機能施設との合同訓練を実施しており、地域住民にも参加を働きかけている。	地域住民が参加される訓練は行われていない。近くに民家がかかり居住されており、近隣住民が協力の下、訓練されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや考え、希望を尊重し、無理強いせず優しく声掛けや対応を行うように心掛けている。	入浴の際は同性介護を基本としており、入浴拒否のあるときは受け入れている。週3回入浴としており、無理強いをせず、誇りやプライバシーにも配慮した実践がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との会話や接する場面では、自己決定を意識して対応するように心掛けている。なお、園内研修で「接遇について」を行った。場面ごとでの良い言葉かけ等を行った。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決まっているが、本人の希望や気分によっては柔軟に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマから日中着の着替えは必ず行っている。朝は髪を梳かしたりして身だしなみに気を配っている。訪問理美容を使って定期的に髪を切っている。パーマの希望も可能。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で味噌汁ご飯を作っている。盛り付けや用意も出来る所はご利用者も手伝っている。職員も同じ食事を一緒にテーブルで食べながら、必要な食事支援を行ったり会話をしたりして食事をしている。	食事バランスは、隣接の施設の方や職員の方と話し合って共同で献立作りをしている。又、オヤツは手作りしている等、共に食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は必ず確認し少ない方には捕食を提供している。食事の形態や量もその人の状態に応じて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて食後の歯磨きやうがい、口腔清拭を実施している。夜間は義歯を洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個々に応じた時間を見計らって誘導や声掛けを行っている。1名は常時オムツ使用であるが、他の方はトイレでの排泄に努めている。トイレ使用中の転落防止バーを設置し安全に配慮している。	個々に応じた誘導、声掛けが実践されている。トイレの中で使用中に前方に倒れる方がおられるので、「バー」で予防する等、安全にも配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で管理している。自然排便が出来るように水分補給に努めたり、畑で採れた野菜を使っての食事や捕食で牛乳やヨーグルト等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を計画している。状態に応じて午後浴、夕食後の入浴に分けて、ゆっくりとゆとりのある入浴を実施している。入浴剤もよもぎ湯等、手作りの物を使ったりしている。	入浴のよもぎ湯等、よもぎのとれる季節に利用者と摘みに行き、乾燥させたよもぎを袋に入れて浴槽で使用し好評を博す等、皆で楽しむ入浴支援が実践されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を送れるように日中は活動の機会を増やすように働きかけている。状態の見て休息が必要な方には休んで頂くように配慮している。夜間の不穏に対しては話を聞いたりお茶を出したりして安心して休めるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等のミスが生じないように、処方薬の一覧表で確認しながらチェック、管理している。病状の変化が見られた場合は速やかにかかりつけ医に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活を共に送る事を目標に、家事等でご利用者の出来る事を職員と一緒に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外に出掛ける事を事業所の重点方針としている。日常的には畑や花壇の水やり、散歩、買物、日光浴など。その他、季節ごとにご利用者が出掛けたい所へ計画的に外出支援を行っている。	外出は毎月一回ほど行っている。柏崎市のえんま市やふるさと祭、長岡市の丘陵公園やドライブ等、季節季節に応じた外出を楽しむ計画が実践されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっている。買物の際には、その方の能力に応じて支払って頂いたり等配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く人はいないし要望も見られない。家族や友人に電話等の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使い、天井にはハリを巡らせてあるため、事業所全体が落ち着いた雰囲気になっている。廊下も電灯を使って懐かしい雰囲気になっている。	地元の杉材を使った建物で、木のぬくもりのある施設である。窓も適切につくられてあり、表通りは、近所の民家の人々の出入りも見られて寂しさは感じないと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の居間には、畳のスペースとソファを設置している。また、ユニットの中央には、共同で利用出来るスペースを確保している。(ベンチを設置)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと整理ダンスは設置してあるが、使い慣れた馴染みの品物を持ち込む事は制限をしていない。	個室であり、ベッドの他に家族の泊まれるスペースもあり、居心地は良いものと思われる。トイレの位置は3室に一箇所設置されており、あまり遠くなく設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札や必要に応じて目印を付けている。トイレでの転落防止のバーをつけて安全に配慮している。		